



蔵 DE Books
としよだより

ほんとしおり

Vol.6

2017年7月発行

ひぐらしを聞くと、



夏の夕暮れ。ひぐらしのカナカナという鳴き声を聞くと
思い出すのは、小学一年生の夏休み。ラジオ体操に学校の
プール。帰り道のアイスや、夕方の特別アニメ。夜は蚊帳
の中で怖い話。そんな毎日が新鮮で楽しかったから、その
年の夏を「夏の代表」として思い出すんだと思っていました。
でも、大人になると色んなことが分かってきます。

その年、祖父と庭にヒマワリの種を植えました。ある日
の夕方、庭に出てヒマワリの花を見に行くと、屋敷森で覆
われた西の空から日没の柔らかな光がもれて、穏やかな夏
の空気と一緒にひぐらしの声が聞こえました。その時感じ
た夕暮れの心地よさは、今も心と体に残っています。

内弁慶だった私は、いつもそばにいて優しくしてくれる
祖父に甘えっぱなしでした。近くにいるのが当たり前過ぎ
て、ありがたいの一言も言えないまま、祖父はその夏の終
わりに亡くなりました。あの夕暮れは祖父と一緒に時か、
そもそも祖父が亡くなる前か後か、薄情ながら覚えていま
せん。ただ、今になって、あの楽しい夏——悲しさや翳り
を一切感じることなく過ごせたあの夏は、痛いのを我慢し
て亡くなる数日前まで家族と過ごした祖父が残してくれた
最後の贈り物だったのだと思うのです。

今年の夏も、またあの日々を思い出すでしょう。優しく
心地よい夕暮れの光とともに。そんな時は心の中で、祖父
にありがとうを言いたいです。



蔵 DE Books としよ

ほんとしおり

Vol.6 2017年 7月号

ひぐらしを聞くと、



3 挑戦!! 100冊マラソン

4 満員御礼 文学喫茶「銀河鉄道の夜」

6 物語メシ! 映画『かもめ食堂』『めがね』より
かもめがね定食

8 まちライブラリー拝見
星空の図書館(千葉県いすみ市)

10 としよがかりの声①
『ダイダラ坊の足跡』とその考察

11 オススメの本『know』
としよがかりの声②「チョコットカフェ部」

12 ご案内
蔵のイベント情報/利用案内/寄贈について



挑戦!! 100冊マラソン

100冊マラソンとは…?

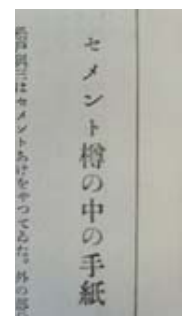
としよがかりメンバーが1年で100冊の読破に挑む…という企画です!
期間は今年度中(平成29年4月1日〜平成30年3月31日)とします。
読了した本と感想は、順次ホームページに掲載していく予定です。
特にテーマは決めず、としよがかりメンバーがそれぞれ好きな本を読んでいこうと思います。

皆さんと感想を共有しあったり、互いに本を紹介したりと、様々な形で楽しめる企画になれば幸いです。(小町)

読んでものはこんな本!



『セメント樽の中の手紙』
葉山嘉樹
労働者松戸興三が、樽から枿へセメントを移していると、そのセメント樽の中から小箱に入った手紙が出てきます。セメント袋を縫う女工が送った、とても衝撃的で悲しい悲しいその手紙の内容とは…!! (kana)



『りんごの涙』俵万智
歌人・俵万智のエッセイ集。温かみのあるかわいらしい表紙と、声に出してみたくなる短歌が魅力的な一冊です。(やよい)

達成なるか?! さらぞ期待!!



ゴールまであと何冊かは kuratake0407.com をチェック!

『珍妙な峠』町田康
めちやくちやなストーリーですが、お金を使う意味について考えさせられた一冊。あまりに絶望的で、ぞくぞくします。(やまね)



『たったひとつの冴えたやりかた』ジェイムズ・ティプトリー・ジュニア

SF作家の想像力は凄まじい、と思わされた。表題作から第三話の「衝突」まで様々な角度から、作者の想像した宇宙や、そこに住む人々、文明を楽しむことができる。(小町)



72分の1の、こんにちは。

第37候
8月7日〜8月11日
【涼風至】
すずかぜいたる。立秋を迎えお盆が近づくと、暑さの中に過ごしやすさを感じる。日が暮れると虫の涼やかな音色。このころから挨拶の手紙も暑中見舞いから残暑見舞いに変わる。旬の魚かわはぎは新鮮なら肝醬油で刺身が旨い。旬の野菜はスイカにオクラ。オクラはビタミン、ミネラルたっぷり。夏バテ防止しに。

《参考書籍》「くらしのこよみ」うつくしいくらしかた研究所/平凡社

日本の四季には24の節気と、72の諸侯があります。日々の小さな変化に耳をすますと、季節の足音がそっと聞こえてきます。

～ほんとしおりについて～

2015年秋に矢板武記念館の東蔵にてオープンした蔵 DE Books を、たくさんの方に親しみをもって利用してほしいという思いで作っています。

蔵 DE Books の管理、運営をしているとしよがかりメンバーによる自由気ままな読み物や、本にまつわるあれこれ、そして蔵のイベント情報を楽しく元気にお届けいたします。

本にしおりをはさんだら、一息ついて次は何する?



絵で物語を辿る『銀河鉄道の夜』！！

⑩二人きりになって、ジョバンニはカムパネルラにずっと一緒にいようと言いますが...



⑦さそり座の近くを通ります。女の子は自らを犠牲にして赤い星になった蠍の話をしました。



④銀河名産のきれいなリンゴを食べみんな元気を取り戻します。



①学校ではいじめられ、夜は仕事に忙しいジョバンニですが、



⑪宇宙の穴に吸い込まれるようにカムパネルラは突然いなくなりました。



⑧鉄道は南十字星に近づきました。男の子は降りたくないようです。



⑤家庭教師は氷山に船がぶつかった時のことを話しました。



②気がつくと、銀河鉄道の中。親友のカムパネルラも一緒に。



⑫気がつくと元の世界に戻ったジョバンニは、カムパネルラが川に流されたこと知りました。



③3人とお別れ。南十字星に沢山の人が膝まづいています。



⑥大変な目に遭った人たちの思い、やるせない気持ちになるジョバンニ。



③そこへ悲しそうな家庭教師と子供達が乗ってきました。



入り口に看板と花を置いて(上)、珈琲の道具を揃えて(下)、解説書も用意(中)。さあ、素敵な夜の始まりです。



文学喫茶 満員御礼！ 『銀河鉄道の夜』



文/写真
やまね



であるkanaさんに、物語をイメージした絵を描いてもらい、紙芝居形式でめぐっていくこと。この絵は登場人物の表情や植物や星座が細かく描かれていて、本当に素晴らしい。(写真が下手で伝わりにくいですが。)

もう一つは、夜の蔵を喫茶店に見立て、本格的な道具でコーヒーを淹れること。豆は記念館近くの高橋金物屋さんの自家焙煎珈琲。私たちも店員さんのような衣装を着て、お客さんにくつろいでもらえたらと考えました。

他にも音楽やプラネタリウムによる演出、星座の解説など物語の世界観を伝えられるよう工夫しました。

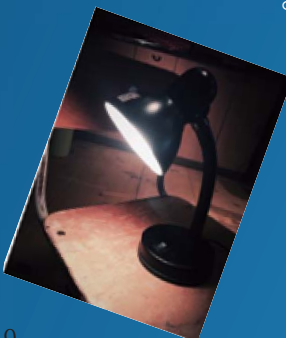
当日は予想以上の来客数となり、行き届かない部分も多々ありましたが、お客さん達が温かい気持ちで聞いてくださり、無事終了できました。

3月某日、夜の蔵で朗読会企画、「文学喫茶〜銀河鉄道の夜」を開催。読むのは我々としよがりメンバー。上手くできるか不安でしたが、この日のために練習を重ねてきました。

今回の朗読会の特徴は二つ。一つは本紙の四コマ漫画の作者

最後のプラネタリウムで感嘆の声が聞こえた時は、心の中でガッツポーズ。お客さんからも「良かったです」という言葉を聞いて嬉しかったです。大変なこともありましたが、開催することが出来て本当に良かったと思いました。

最後に、今回も市内のいろんな方達にお世話になりました。ありがとうございます。また、ご来場下さった方々、ありがとうございます。聞き苦しい点もあったかと思いますが、もう少し上手くなって、また懲りずに第二回を考えています。



名作に、いつも美味しいごはんあり。面白い物語には、その作品ならびの名物料理や、登場人物の思いの詰まった料理が登場する。それが、「物語メシ」である。このコーナーでは、とよがかりが独断と偏見で選んでいただいた作品の「物語メシ」を、実際に作り、食べるまでの過程をまよめていく。



『かもめ食堂』2006年
原作 群芳堂 出演 小林隆美、もたいまさこ、片桐はいり 他

『めがね』2007年
脚本・監督 秋上直子
出演 小林隆美、もたいまさこ、市川実日子 他

物語メシ

文/写真
やまね

～映画『かもめ食堂』と『めがね』より
かもめがね定食!
(豚の生姜焼き、ポテトサラダ、
絹さやとキャベツの味噌汁、塩むすび)



豚の生姜焼き

はじめに、タレを作っていく。すりおろした生姜に、醤油、酒、みりんを加え、混ぜる。次に、食べやすい大きさに切った豚肉をタレに漬け込み、少し置く。豚肉がタレに馴染んだら、油をひいて熱したフライパンで、火を通して完成。



袋を使って漬けると便利!



ジュウっと一気に焼く。



色が変われば完成!

今回は映画の中の物語メシ。「美味しそつな映画」といえば、最近では秋上直子監督の『かもめ食堂』と『めがね』が知られています。フィンランドと与論島。物語の舞台は違うけれど、どちらもまなやかな日々を大事にしている人達の物語。のんびり無理せず自分と向き合い、隣の誰かとちょっとだけ笑い合えたり、誰かのさりげない優しさを受け止めたり…。派手さはないけど、心穏やかに過ごす日々。この映画に出てくる料理は、肉じゃが、唐揚げ、卵焼きといった普通の家庭料理なのに、出てくるとなぜか画面に釘付けになって一時停止ボタンを押してしまったり美味しそう。そして、食べてる人達の顔はどれも幸せに包まれています。それはきっと、一つの料理に心がこもっているから。美味しいご飯は体だけじゃなく心の栄養にもなるんですね。

今回は2作の中からメンバーが食べたいメニューを定食風に。柔らかな春の日差しが差し込むキッチンで、のんびり丁寧についた料理は、高級料理に負けない豊かな味がしました。

ポテトサラダ



塩で水分を出すことで、水っぽさ防止!重要!



ジャガイモの熱で玉ねぎがしい具合にしんなり。



よく混ぜて完成!

材料

- 豚の生姜焼き
- ・豚小間 200グラム
- ・生姜 5グラム
- ・醤油 大さじ2
- ・酒 大さじ2・みりん 大さじ2
- ポテトサラダ
- ・ジャガイモ 3個・きゅうり 1本
- ・玉ねぎ 1/2個
- ・アンチョビ 2、3切れ
- ・マヨネーズ 適量・塩胡椒 少々
- ・バター 少々
- 絹さやとキャベツの味噌汁
- ・絹さや 10個
- ・キャベツ 適量
- ・玉ねぎ 1/2個

絹さやとキャベツの味噌汁

まずは、ダシをとっていく。鍋に水と昆布を入れ、火にかける。沸騰する間に、絹さやのすじ取りをしておく。沸騰したら昆布を取り出し、鰯節を入れる。少し煮たら、鰯節を取り出す。玉ねぎ、キャベツ、絹さやを入れる。火が通ってきたら、味噌を入れる。



出汁のいい香り!



具は春らしい色の旬の野菜(※)



味噌を溶いて完成!

※調理は4月に行いました。

まずはジャガイモを一口大に切って十分ほど茹でる。ジャガイモを茹でている間に、玉ねぎときゅうりをそれぞれ薄く切っておく。玉ねぎは水にさらし、きゅうりは塩を振り置しておき、しばらくしたら水気を切る。ジャガイモが茹で上がったつづいて、まだ粗熱があるうちに玉ねぎを加える。次に、きゅうり、アンチョビ、マヨネーズ、塩胡椒、バターを入れてよく混ぜたら完成。

やっぱりシンプルに塩おにぎり! 映画のよつにあつあつを握りました!



味噌汁が冷めないうちに、いただきます!

あたたかい雰囲気の図書館。いつまでもここにいたくなる素敵な空間。



地域の
交流の場
として



まちライブラリー 拝見

星空の小さな図書館（千葉県いすみ市）

文/写真
やよい

本が人と人をつなぐ「まちライブラリー」。よその「まちライブラリー」にお邪魔しているいろいろなお話を伺ってきました。



今回お邪魔したのは、千葉県いすみ市の「星空の小さな図書館」。東京駅から電車で1時間ちよつと。そこから車で20分ほど進むと、山と田んぼに囲まれたのどかな景色の一角で、かわいらしい看板とひっそりとたたずむ古民家が出迎えてくれました。



田舎暮らしに憧れて、都会から緑あふれるいすみ市に移住してきたオーナーの三星さん。いすみ市は東京から1時間ちよつと、東京も好きな三星さんにはぴったりの場所だったようです。三星さんは空き家だった古民家を利用して、シェアハウスを運営されています。その敷地にあった納屋を、自分たちで改装してできたのが「星空の小さな図書館」です。自分たちで塗ったという味のある内壁。急な階段を登って行く2階は、まるで秘密基地みたい。図書館の中には、シェアハウスの住人が持ち寄った本や子供のための移動図書室「33 LIBRARY」の蔵書などが並べてあります。

三星さんの手作りのアルバムを見せてもらいました。一年で一冊作ってきた小さなアルバムの中には、納屋の改装から始まりこれまでのイベントなどの写真が文章と一緒に納められています。イラストレーターの展示会、手作りパズル体験、移動図書館、古本市などなど。自分の手で企画したり、人にスペースを貸し出したり、面白そうな企画が盛りだくさんでした。図書館の運営に際して、お客さんが来やすいようにと心がけているのが、ホームページをこまめにアップすることと、決まった曜日にオープンすることだそうです。

ご協力ありがとうございました



図書館の思い出が詰まったアルバム。



三星さんと雑誌『OZ』。いすみ市を知るきっかけとなった思い出の雑誌。

シェアハウスよりも、もっと地域に開かれていて、気軽に遊びに来られて交流できる場所としてこの図書館は生まれました。現在では、近所の人や親子連れも遊びに来てくれる交流の場所となりました。「当たり前前にそこにある場所として、長く続けていきたい。」と素敵な笑顔の三星さんでした。ありがとうございました。

おすすめ 本

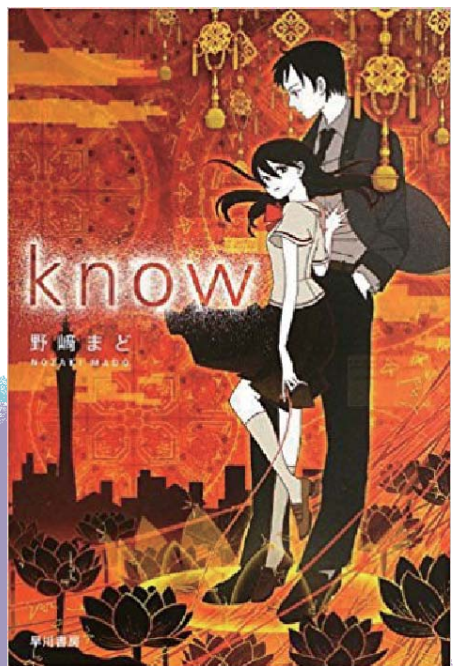
『know』
野崎 まど 著
ハヤカワ文庫 JA

時は西暦2081年、情報技術が高度に発達し、情報へのアクセスを瞬時に行うことが可能となった世界では、「調べること」と「知ること」の意味が同じになっていた。

高度な情報処理技術を管理する情報庁の官僚である主人公は、ある日、恩師の残した情報コードの中に暗号が残されていることに気づく。その暗号をひもついた先で待っていたのは一人の少女だった。恩師の真意も分らぬまま「すべてを知る」といわれる少女と、世界を変える4日間を経験する……という物語。

著者の類まれなる想像力によって構成された、高度情報技術社会のリアルさがなんといっても魅力的で、将来こういう風に情報の使い方が変わっていくかもしれないと、本書を読んでいると幾度となく感じることだろう。また、情報技術の進化が行き着いた場所で、人間がどのように振る舞うのか、そんなことも考えさせられる作品だ。

とにかく想像力を駆り立てる物語となっているので、最近本を読んでいないという方や、SFは小難しく敬遠しているという方にも、ぜひオススメしたい。



としよがかり の声①

『ダイダラ坊の 足跡』

とその考察

文 小町

世界各国には、巨人についての様々な伝承、神話体系が存在する。特にヨーロッパに目をやるとキエクロプス、タイタン、ゴリアテ、ネフィリム、ギガス族など巨人の多種多様なバリエーションに驚く。こういった様々な巨人が各々の神話の中で果たす役割というのも又多種多様である。ヘカファイトスに仕えるキエクロプス、ダビデに倒されるゴリアテ、神の怒りに触れ、ノアの大洪水の原因となるネフィリムといったように……。

今回の考察では、数多の巨人の中でも、映画『もののけ姫』でも有名になったダイダラ坊（ダイダラボウシ、ダイダラボツチ）について柳田國男の『ダイダラ坊の足跡』を参考にしながら調べていく。

今回、柳田の『ダイダラ坊の足跡』を読んで分かったことを簡潔に言ってしまうと、『ダイダラボツチ』は機能神であり、主として4つの働きをもって語り継がれているということである。まず、この『ダイダラ坊の足跡』についてだが、柳田はこの中で大男の出てくる各地の巨人譚の比較から精密に根源の信仰を探るためにこの書物を著したと書いている。つまりこの書物は各地の巨人の関する説話とその根底にある人々の信仰に関する本であるということだ。

次回は、この本やその他の資料を読み、気づいたことなどを書いていこうと考えている。

としよがかり の声②



お菓子が大好きなやよいです。お菓子と一緒においしいコーヒー&紅茶があればもっと嬉しい。でも自分で淹れたコーヒーはちよつと変な味がします。

おいしいコーヒーを淹れられるようになりたい、あわよくば蔵でお茶会をしてみたいと、カフェ好き三人で蔵*武Project「カフェ部」を立ち上げました。

カフェが好き、こんな活動したら面白いんじゃない、という方はぜひぜひご連絡ください。一緒にのんびりまったりとお茶を楽しみましょう。



小さな蔵の映画祭

日付：7/29(土)

場所：矢板武記念館西蔵

上映作品：「ティファニーで朝食を」(125分)

開場：10:00 上映開始：10:10



蔵*武 project
の活動の詳細は、
こちらをチェック→



本だけ
じゃない



ご案内

蔵の イベント 情報

蔵 DE Books 利用案内

入館料100円。

(蔵で飲み物の提供あり)

・貸出し可。(一人2冊。2週間まで)

※駐車場はありません。

市役所駐車場をご利用ください。

・利用時間(注)片付け時間を含む。

4月~10月 9:45~15:30

11月~3月 10:15~14:30

休館日は月曜、火曜、祝日の翌日及び、

年末年始(12月27日~1月5日)



本の寄贈について

受付日：毎月最終土曜日

受付先：矢板武記念館受付

※スペース等の都合により、

本を本棚に並べられない

こともあります。

※公序良俗に反するもの、

宗教や思想色の強い本を

並べることは出来ません。



まちライブラリーに加入しています。

まちライブラリーとは、まちのあちこちに本棚を置き、本を通して人との縁を繋ぐ活動です。全国で展開しています。

寄贈の際は、メッセージカードに感想などを記入してください。

本に付いたメッセージカードが次々に本を読んだ人たちの想いを伝えていきます。

蔵 DE Books の全ての本にはまちライブラリーのシールを貼付。

蔵*武 project メンバー募集!!

矢板が好き、古い建物を活かしたい、文化、芸術に興味がある方。

一緒に蔵*武 project をもりあげませんか。年齢・経験不問です。

お問い合わせは p.kuratake@gmail.com まで。



蔵*武 project とは

矢板武記念館の蔵を人が集まる場所に再生することを目的に、矢板武塾卒生を中心とした20~30代の若者達が活動。

お問い合わせ：p.kuratake@gmail.com までメール